

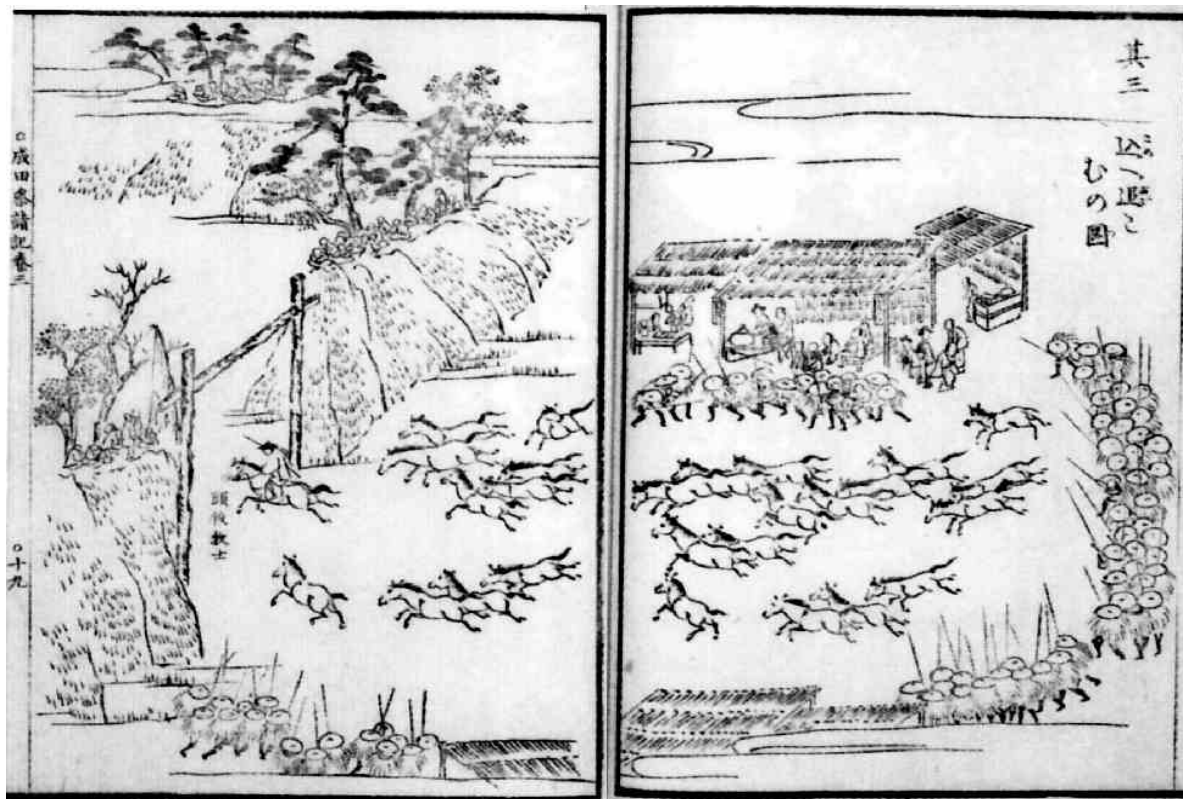
◆◆◆江戸時代末期の習志野原◆◆◆

江戸時代には、下総の広大な大地に幕府の馬牧(放牧場)が置かれていた。

下総の広大な大地には幕府の放牧場(馬牧)の小金牧と佐倉牧がおかれた。中世の牧を利用したと考えられている。江戸時代の中期以降は、小金牧が五つの牧(小金五牧)、佐倉牧が七つの牧(佐倉七牧)から成っていた。小金牧は柏、松戸、鎌ヶ谷、船橋、習志野、千葉、白井、印西の各市域におよんでいた。

船橋市域には小金五牧のうち、最も南東寄りの下野牧しものまきがあった。現在の咲が丘から鎌ヶ谷市の一部を含み、二和西～二和東～金杉～みやぎ台～三咲～南三咲～三咲町～大穴南～大穴町～高根台～新高根～西習志野～習志野台～習志野～薬円台(一部)～三山(一部)～各地域の台地上である。北西←→南東方向の帯状に広がり、市域を北東と南西に二分していた。下野牧はさらに南東へ、現在の習志野市東習志野～千葉市花見川区花見川～天戸町におよんでいた。

牧の囲いとするための土手(野馬除土手)や堀(野馬堀)を設けた道が通り抜けていたため、牧の出入り口となる部分は土手や堀のかわりに門(木戸)をつくり、馬が逃げ出さないようになっていた。高根木戸や新木戸にいの地名はこの名残である。



下野牧野馬執の図 其の三



下野牧野馬執の図 其の四